



イラストでみる 大坊古墳ものがたり

国指定史跡・日本遺産構成文化財

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

TEL:0968-75-1136

bunka@city.tamana.lg.jp



■装飾保護のため普段は施錠していますが、年2回(春・秋)の一斉公開にて見学できます。

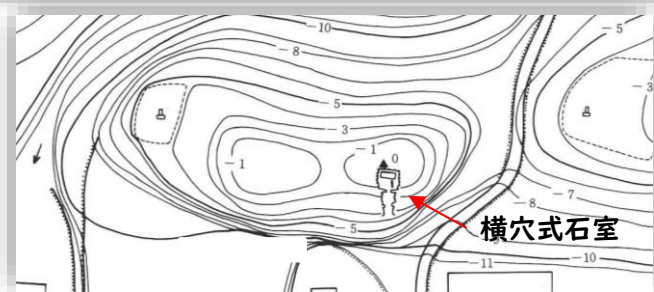
◆国史跡 大坊古墳とは？◆

～菊池川流域は装飾古墳の数が日本一！

今から、約1500年前(6世紀前半から中頃)につくられた前方後円墳です。菊池川右岸の玉名平野を見渡せる丘陵先端に位置していることから、この一帯を治めた豪族のお墓と考えられます。全長は40mを超え、後円部に横穴式石室があり、遺体を安置する石屋形内に、赤・黒・青(灰色)の顔料で連続三角文、円文といった幾何学文様が描かれています。

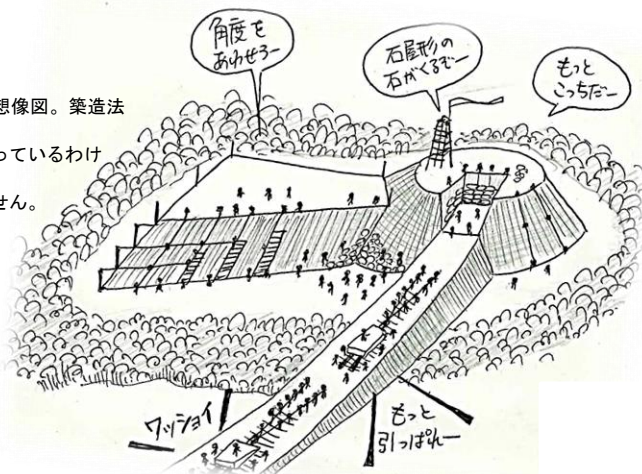


築造当時の大坊古墳(想像図)



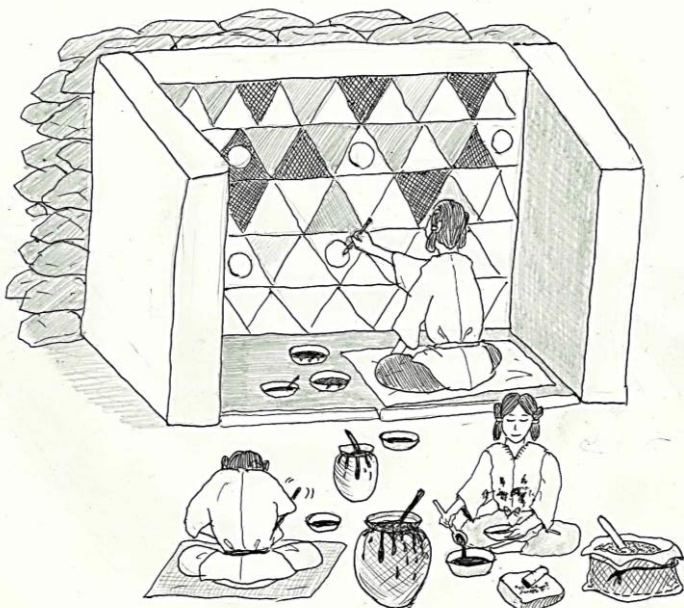
現在の大坊古墳地形図

※あくまで想像図。築造法が明確になっているわけではありません。



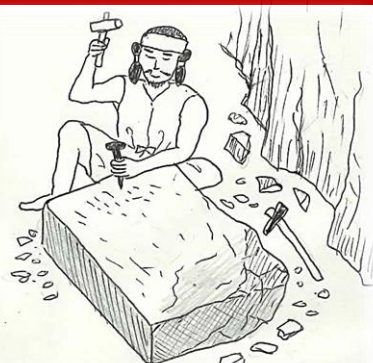
大坊古墳はどうやってつくったの？

▲古墳は、東西に延びる丘陵の先端にあり、ある程度は自然の尾根を利用していたとみられます。築造当初は前方後円墳の形に成形されていたと考えられ、全面の発掘はされていませんが、南面では葺石が確認されています。一番大変だったのは、石屋形の巨石を運ぶ時だったでしょう。



装飾文様はどうやって描いたの？

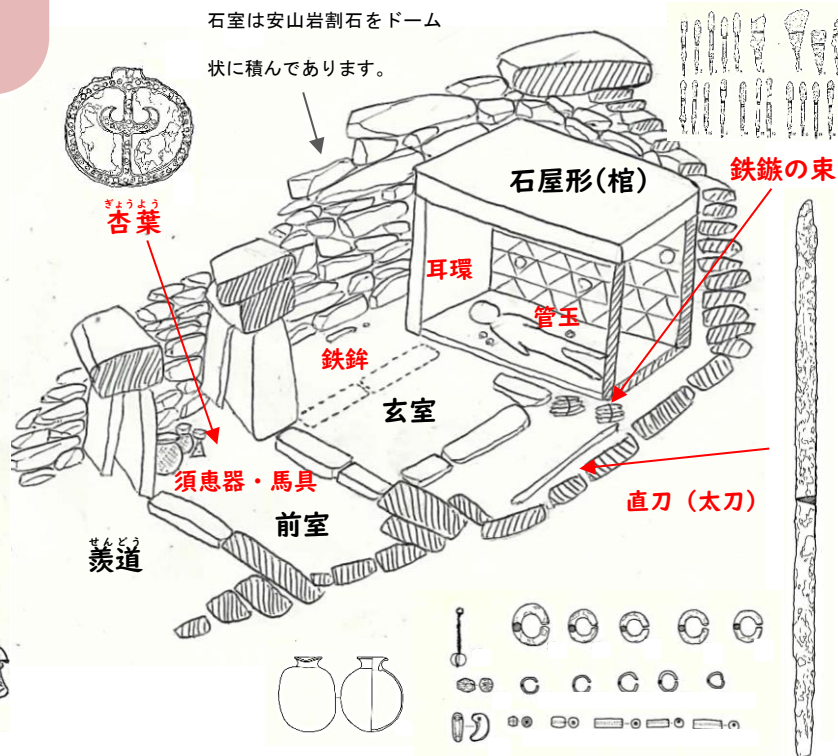
▲おそらく専門の職人がいて、顔料は赤色がベンガラ、黒色は木炭、青（灰）色は、青灰色粘土を使用していたと考えられています。三角や円、菱形の文様は菊池川流域における装飾古墳の特徴で、三角は魔除け、円は太陽や鏡を意味しているのではないかと考えられています。



石屋形の石はどうしてきれいなの？

▲玉名には加工しやすい阿蘇溶結凝灰岩の崖面が豊富にあります。以前から舟形石棺などが独自に製作され、大阪方面にも運ばれるほどでした。腕のいい石工職人が玉名にはいたと考えられ、実際に鉄製の手斧なども古墳から発見されていますので、そのような工具を使い、まるで機械で切ったような加工をしたようです。

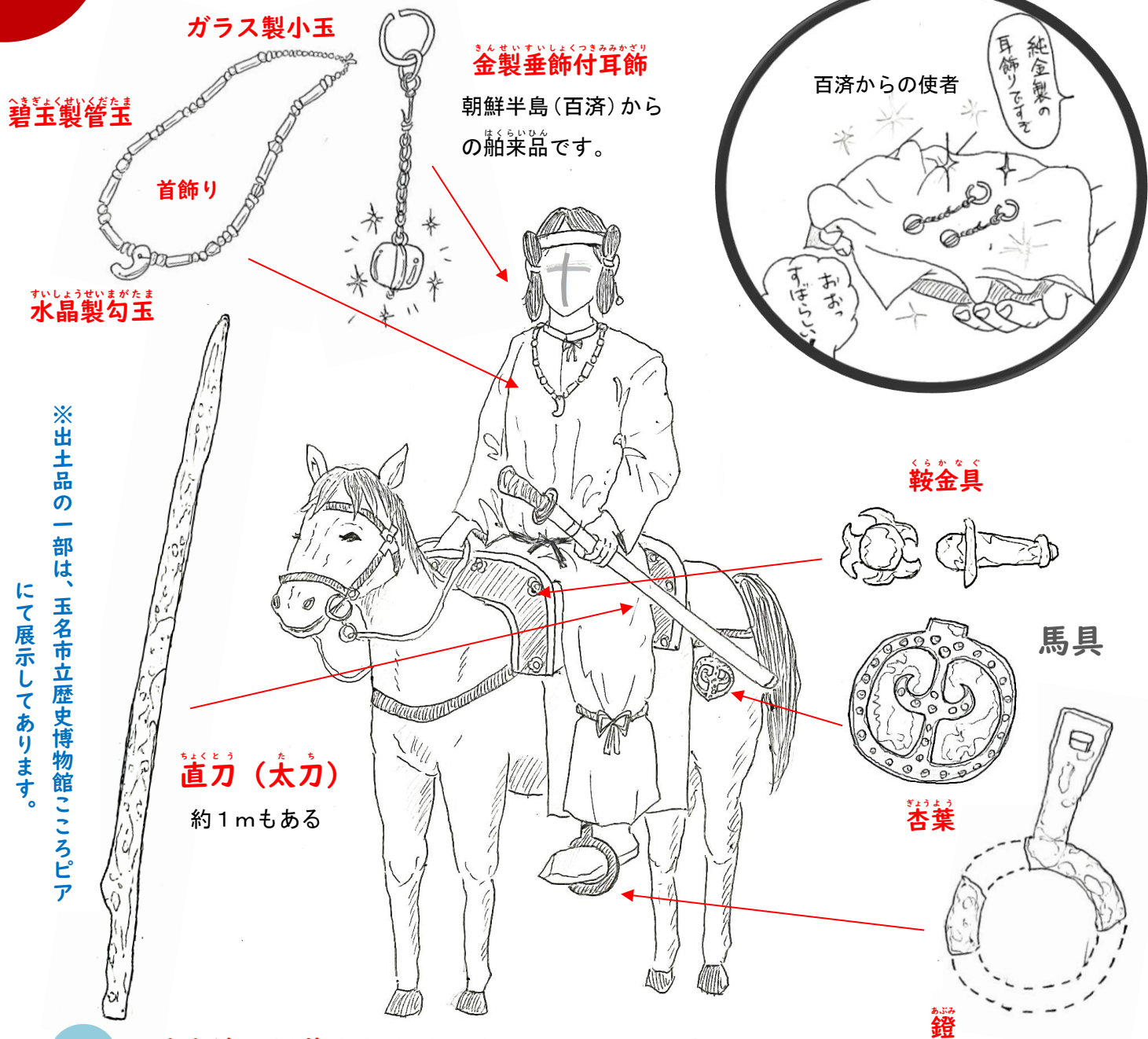
石室は安山岩割石をドーム状に積んであります。



副葬品はあったの？

▲大坊古墳は早くから開口していたと考えられます。昭和38年の発掘調査時に、堆積した土砂の中から金製耳飾りが発見されました。また、原位置を保っていたと考えられるものには、玄室内の鉄鏃の束（約10本）が2セットと約1mもある直刀、前室の須恵器（提瓶・高環）や馬具（杏葉・鏡）などがあります。

大坊古墳の埋葬品からみる人物像



大坊古墳に埋葬された人はわかっているの？

▲残念ながら、記録や人骨などが残っていないため、名前や年齢、身長、性別などはわかりません。また、横穴式石室は、入口の扉を開ければ何度も追葬(後から別の人を葬る)が可能でした。大坊古墳は、早くから開口していたと考えられますが、玄室の通路両側にある屍床からも、直刀や鉄鏃、鉄鉾などの武器が出土しており、石室形の主の他にその家族なども埋葬されていた可能性があります。

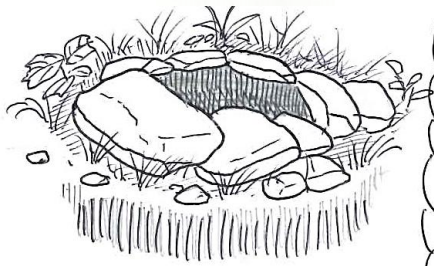
大坊古墳の主はどんな人物だったの？

▲金製の耳飾りなどが出土しており、このような精緻な細工技術は、当時の日本にはなかったため、大陸からの舶来品とされています。金製耳飾りは朝鮮半島の百済産と考えられ、そのような交易も担える人物だったようです。また、馬具も出土していますが、5世紀に大陸から伝わった馬や乗馬技術も持ち合わせていたとみられます。前方後円墳がつくれるということは、中央政権(ヤマト政権)とも密接な関係を結んでおり、経済力、軍事力、政治力も有した人物像が浮かびあがってきます。

◆ その後の大坊古墳

～発見から保存までの道のり～

大正時代…



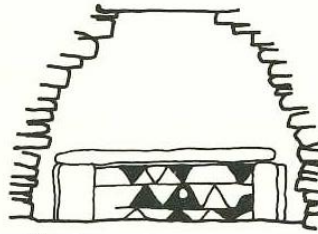
あそこは「鬼のかま」だぞん
入ったら、いけんばい!!!

◀大坊古墳は、時代の流れで荒廃し、忘れ去られようとしていました。いつの頃からか石室の天井に穴が開き、その穴から入った地元の村人たちは、「鬼の穴」や「鬼のかま」と呼び、赤鬼や青鬼が住んでいるともいわれてきました。

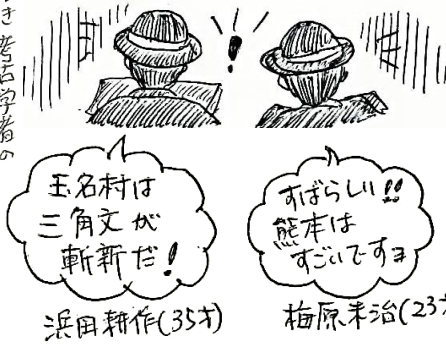


赤鬼だー!!
にげろー
にげろー

二人の若き考古学者の
挑戦がはじまった…



浜田耕作
(考古学者・京都帝国大学教授)



玉名村は
三角文が
斬新だ!

浜田耕作(35才)

おぼろしい
熊手は
すごいぞ

梅原未治(23才)

大正六年



▲「赤鬼、青鬼」がいると伝えられたのは、ロウソクなどの明かりでぼんやり見えた、赤や青色の三角や丸の文様が、あまりにも強烈だったからと思われる。しかし、そのおかげで、壊されずに守られてきたともいえるのです。

▲大正6年、京都帝国大学の^{はまだこうかく うめはらすえ}浜田耕作と梅原未治両氏によって、はじめて学術的に調査されます。『肥後における装飾ある古墳及び横穴』が刊行されて全国に知られるようになりました。

昭和38年…



先生!!
何か金に
光ってます!

金だ
金が出たぞ

奇跡の発見!



田邊哲夫 (39 歳)

(玉名高校考古学部顧問、
のち玉名高校校長)

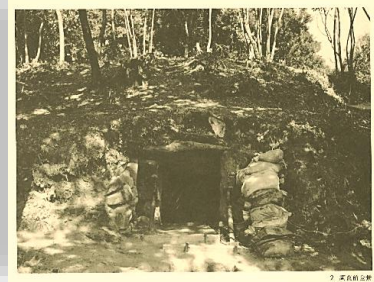
田添夏喜 (53 歳)

(当時、玉陵中学校教員のち
玉名市文化財保護委員会長)

◀昭和 38 年には田邊^{たなべ}哲夫・田添^{たなべ}夏喜両氏と玉名高校考古学部によって石室内の発掘調査が行われ、石室内から金製耳飾りや直刀、馬具、新たな装飾文などが発見されたのです。

そして、保存への道

昭和 48、50 年は墳丘を保護するためのコンクリート擁壁工事が行われ、昭和 52 年に国指定史跡へ。そして、昭和 52～54 年にかけて石室を保存するための整備工事が実施されました。その後、年2回の公開をしています。また、平成 29 年に日本遺産(“米作り”二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域)の構成文化財の一つとして認定されました。



整備前の大坊古墳



整備中の大坊古墳